

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 見附市立新潟小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒 954-0006  
新潟県見附市新潟町2478番地  
E-mail mniigata@mitsuke-ngt.ed.jp  
Website http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mniigata/  
幼児児童生徒数 男子 40名 女子 42名 合計 82名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、「自分大好き、学校大好き、地域大好き」を学校理念にESDを教育活動の核として「自分に自信をもち、地域に誇りをもつ心豊かな子どもの育成」を目標とした。

具体的には、①地域に伝わる伝統芸能「獅子舞」の継承活動の推進、②花と緑とかかわる体験活動を行った。

### ① 地域に伝わる伝統芸能「獅子舞」の継承活動の推進

校区の小栗山不動院に350年以上前から伝わる獅子舞を平成8年度から学校の教育活動に取り入れ、22年目である。小栗山の獅子舞保存会の方から指導を受け、笛、太鼓、獅子舞、神楽舞の技術を学んでいる。また、秋には引継式を行い、6年生から4年生に伝えるこのような活動を通して、獅子舞の伝統を守り、継承していこうとする意欲を高めている。

校内での発表だけでなく、年間いくつかの発表の場を通して獅子舞の伝統の素晴らしさを伝えている。また、この場を経験することが、児童の自信や自己肯定感を高めることにつながっている。

### ② 花と緑とかかわる体験活動

## ア 全校縦割り班活動による花の世話

花いっぱい運動の一つとして、全校縦割り班で花壇やプランターに花を植え、水やりや草取りなどの世話も班ごとに責任をもって行っている。特に、大型プランターの花は、班ごとに何を植えるか相談し、きれいに見えるように植え方を工夫し、育てている。また、児童環境委員会の児童が中心となって、主体的な活動となるように計画立案し、日常的な世話についても積極的に呼び掛けている。

## イ 学校の森（「いこいの森」）を生かした体験活動

校舎脇の「いこいの森」は、子どもたちが森の中を走り回ったり落ち葉や木の実を使って遊んだり、自然に親しみながら楽しむ場である。また、理科や生活科、総合的な学習の時間、図工などの学習の場でもある。ここにある樹木や草花の観察、枝や木の実、葉などを使った工作は子どもたちの楽しみとなっている。

## ウ アースプロジェクトとしての「エコ活動」

アースプロジェクトとして、グラウンドの芝生化、グリーンカーテンの設置、太陽光パネルの活用など、緑化、環境教育を積極的に行ってきた。また、PTAで、年間2回「エコウイーク」を設定し、家族で節水や節電など、環境に優しい取組を行った。子どもたちの活動としては環境委員会が中心となり、節電や節水を放送やポスターを通して呼び掛けたり、エコキャップ運動を行ったりしている。



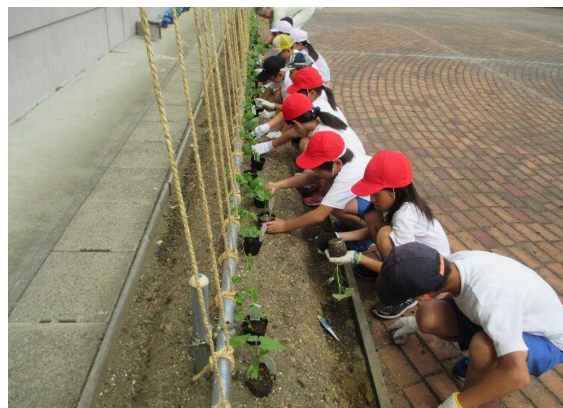
獅子舞の発表



ししの日（下学年への獅子舞継承）



縦割り班での花植え



グリーンカーテンの苗植え

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各教育活動のねらいをユネスコスクールのねらいと照らし合わせ、教育活動の中に無理のないように、指導計画を立てている。特に、教科や総合的な学習の時間、特別活動を中心として、それらに関連づけて実践することにより、時数確保と内容の充実を図るようにしている。また、児童の各活動後には、必ず児童相互の関わり方や活動のねらいの達成度について振り返り活動を取り入れ、さらによりよい活動になるように努めた。また、年度当初、実践していく上で地域の人材や素材を知るために、学校運営協議会の委員から情報を得る会を設定し、活動が充実するようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

P T A や地域コミュニティで、学校の取組について説明し、協力を得る。また、年度当初に、年間計画について全職員で確認する会を設定し、見直しをもって実践できるようにしている。さらに、様々な教育活動に協力してくれるボランティア（にこにこボランティア）を年度当初に募集して登録してもらうことにより、各活動に合わせて参加者を要請し、協力してもらうことができている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年間2回（前期・後期）、児童と保護者に学校評価アンケートを実施し、教育活動について評価をしている。また、評価結果について、学校運営協議会を開催し、委員から検討していただき、改善に生かすようにしている。児童アンケートでは、自己肯定感についての問いに対しては肯定的評価が90%を超え、地域のよさや人の思いに気づく児童の割合は約98%にもなっている。今後も活動がマンネリにならないよう、常に改善を加え充実させていく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

評価結果は、学校評価だよりにまとめ、学校運営協議会で検討し、改善策についてご意見をいただいている。その内容を職員で確認し合い、今後に生かすようにしている。また、PTAや地域コミュニティでの会合でも教育活動について理解が得られるように積極的に活動内容を紹介するように努めている。また、評価だよりだけでなく、日々の教育活動の細かい内容をホームページで紹介し、理解と協力が得られるように努めている。ホームページへのアクセス数も増えつつある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域コミュニティの組織に管理職が加わるとともに、コミュニティの活動(花の植栽活動、地域コミュニティのまつり行事など)に職員が積極的に参加するようにしている。また、保護者や児童にも参加を促すように便り等で呼びかけている。

見附市の事業である、「みつけこども大学」に参加し、毎年1回大学の教授から児童の興味関心を引き出す授業をしていただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

メールで配信されてくるユネスコスクールの案内や交流会などの情報を見るようにしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

特にユネスコスクールだからというわけではないが、より積極的に保護者や地域との連携を深めることによって、教育活動を充実させていくことにつながっている。このことにより、ねらいとする「自分大好き、学校大好き、地域大好きな」児童が育ってきている。また、教職員もねらいを明確にし、連携して取り組むことにより常に改善を加えて実践することに努めるようになっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・新学習指導要領完全実施を見据えた教育活動の改善と充実を図る。そのための指導計画作成を全職員体制で早めに取り組む。
- ・地域の伝統芸能「獅子舞」の継承活動の充実を図る。特に、児童が指導される側となって受け身でばかりいるのではなく、積極的に発信したり、継承活動をより意欲的に行っていく態度を育てる。
- ・学校の環境美化及び花いっぱい活動や学校の森整備に関わって、PTA や地域との協力体制を強化し、児童が学習したり生活したりしやすい環境を整える。また、児童が花や緑を育てる活動を自主的に行えるようにしていく。そのために、児童会活動や縦割り班活動を充実させる。